

令和3年度 事業報告

第1 公益目的事業

本学院は、各種詩歌等の吟詠法に関する科学的研究と、その指導法及び作詩法の研究指導機関としての役割を全うするため、新型コロナウイルス拡散による緊急事態宣言・まん延防止の発出等厳しい状況下ではあったが広く吟道指導者を育成指導し、不特定多数の者に吟道の普及振興を図ることを目的として、以下の公益目的事業を行った。

1 吟道に関する研修会、講習会及び大会の開催

一 研修会・講習会

(1) 日本吟道夏季大学講座

詩歌吟詠法及び作詩の理論、実技の指導のため、令和3年8月23日（月）及び24日（火）の2日間、東京都江戸川区タワーホール船堀で日本吟道夏季大学講座を開催予定であったがコロナ禍で中止とし、視聴覚教材（CD・DVD）を活用した講座に切り替え実施した。

受講者 450名

(2) 中国国際詩歌節

「第33回馬鞍山李白詩歌節中日詩吟交流大会」にリモート参加し、中国の漢詩のより深い理解に努め日中友好を図った。

令和3年10月14日（木）日本吟道会館ホール

参加者 25名

(3) 地区吟道講習会

詩歌吟詠に関する研鑽を深め広く吟道を普及するため、各地区が主体となり講習会の計画を立てたが、コロナ禍により一部地区以外は全て中止した。

① 千葉・茨城地区

令和4年2月5日（土） 中止

② 東京地区

令和4年2月27日（日） 中止

③ 神奈川・山梨地区

令和4年2月6日（日） 中止

④ 三重地区

令和3年11月14日（日） 鈴鹿市労働福祉会館

受講者 55名

⑤ 南部九州地区

令和3年10月10日（日） 中止

(4) 指導者育成推進講習会

(4) — 1 指導者育成推進講習会

吟道の全国的普及を図るため、地域における指導者の育成及び指導力の強化を図ることを目的として全国各地で研修計画を立てたが、コロナ禍により一部

地区を除き中止した。

① 東北地区

令和3年7月26日(月)初めての試みとして、福島・秋田・青森・日本吟道学院本部の会場をオンラインで結びリモートで開催した。

受講者 33名

② 北関東地区

令和3年12月5日(日) 東公民館 受講者 64名

③ 南関東地区(埼玉、千葉・茨木、東京、神奈川・山梨)

令和4年2月24日(木) 中止

④ 中部地区

令和3年8月1日(日) 学院本部と飛騨・世界生活文化センターを結びオンラインで開催

受講者 54名

⑤ 中国地区

令和3年10月10日(日) 中止

⑥ 南部九州地区

令和4年2月6日(日) 中止

(4) 一2 吟道普及実践教室

吟道普及実践者としての「真に指導にあたる指導者」を育成するため、本部主導の本格的指導者育成機関として「吟道普及実践教室至誠塾」を開設予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い延期とし、令和4年度の事業計画に盛り込み二ヶ年計画で実施することにした。

二 吟道に関する大会の開催

日頃の吟道精進の成果を披露し、また、他人の吟詠を聴き研鑽に励み吟詠の魅力を広く周知して吟道の普及に資するため計画した下記諸大会については、新型コロナウイルスの拡散問題で中止・計画の見直しを余儀なくされた。

(1) 日本吟道全国大会

全国の会員を対象として開催する、第71回日本吟道全国大会

令和3年11月19日(金) 東京都江戸川区総合文化センター 中止

(2) 日本吟道名吟大会

前記(1)日本吟道全国大会と同日開催予定 中止

(3) 日本吟道青少年全国大会・壮心の集い

コロナ禍により令和元年度、2年度は中止としたが、コロナ蔓延防止等措置が解除されたことから、幼少年及び青年を対象に第57回日本吟道青少年全国大会を行った。同時に各地区の壮心大会で選出又は推薦された代表者により壮心の集いを行った。

令和4年3月25日 東京都かつしかシンフォニーヒルズ

参加者100名

(4) 日本吟道青少年サマースクール

令和3年8月14日(土) 代々木公園

中止

(5) 日本吟道全国吟詠コンクール決選大会

全国各地区より選抜された会員による、日本吟道全国吟詠コンクール決選大会出場者を50名に絞り開催した。

令和4年3月25日(金) 東京都かつしかシンフォニーヒルズ

参加者 200名

(6) 日本吟道壮心大会

原則として65才以上を対象に、各地区が主体となり計画した日本吟道壮心大会は、次の地区を除き中止とした。

北関東地区 令和3年7月3日(日) 前橋市第二コミュニティーセンター

参加者 50名

東京地区 令和3年12月3日(金) 小松川区民館

参加者 72名

2 吟道に関する普及活動への支援

吟道の普及活動を行うに当り、全体的に活性化された活動が行われるよう、人的、財政的支援計画を立てたが、新型コロナウイルスの拡散問題で活動が制限され、下記支援は実施出来なかった。

一 公認団体の吟道大会の支援

公認団体の周年行事に際して、本部からの役員の派遣及び大会経費の一部助成等の支援

二 地域活性化、吟道普及につながる事業の支援

三 各地の敬老会、養護施設、学校その他への慰問・指導

3 吟道に関する調査研究及び広報事業

各種詩歌等の吟詠法に関する科学的研究及びその指導法並びに作詩法の研究・指導機関として、「新世紀の吟詠研究会」を中心とした研究活動を行うとともに、吟詠集及び、CDの制作記念発表会の開催、広報誌等を通じその成果を広報した。

一 吟道に関する調査研究

詩歌吟詠法及び作詩法に関する研究会

(1) 新世紀吟の詠研究会の開催とその成果の発表

創立40周年記念事業として、五行歌吟詠集制作記念発表会を開催した。

令和4年3月30日(水) 東京都タワーホール船堀

参加者 200名

(2) その他の調査研究

その他、必要に応じて随時調査研究会を行った。

二 広報事業

不特定多数の人に吟詠を普及するため、吟道に関する次の広報事業を行った。

- (1) 広報誌「日本吟道」の刊行
- (2) 詩歌吟詠に関する出版物の刊行
- (3) ホームページによる広報活動
- (4) その他、マスコミ、公共団体等を活用した広報活動

第2 収益事業等

公益目的事業を補完し、これを積極的に推進するため、次の収益事業及び共益事業を行った。

1 収益事業

一 吟道に関する教本及び教材並びに物品等の販売

二 段級位、伝位及び師範位の認定

- (1) 吟詠の技術の向上に伴い、段級位、伝位の認定を行った。
- (2) 指導技術の向上に伴い、師範位の認定を行った。

2 共益事業

主として本学院の会員を対象とする次の事業を行った。

一 功労者の顕彰及び表彰

- (1) 吟道発展に寄与し、特に功労顕著な者に、冠称を贈り顕彰した。
- (2) 吟道普及に功績のあった公認団体の代表者に対して感謝状を贈り表彰した。
- (3) 吟道普及に功績のあった会員を褒賞した。
- (4) 吟道普及に功績のあった公認団体を表彰した。
- (5) 永年にわたり吟道を研鑽した高齢者を表彰した。
- (6) その他、随時、吟道普及に功績のあった会員を表彰した。

二 新春賀詞交歓会

令和4年を希望のある年とするため、新型コロナウイルス感染防止策を講じ下記の通り「WEB会議システム」を利用したリモート賀詞交歓会を開催した。

令和4年1月8日(土) 東京都文京区 日本吟道会館ホール

参加人員 34名

(内リモート10名)

三 創始総裁・祖宗範周年墓参

令和3年10月16日(土) 埼玉武蔵野霊園

参列者 23名

3 その他、目的を達成するために必要な事業

一 記録の制作と保存

本学院の事業等に関する吟詠等を記憶保存した。

二 (公財)日本吟剣詩舞振興会主催の下記全国吟詠コンクール

令和3年11月1日(日) 東京都千代田区 日本武道館 中止

三 その他、目的を達成するために必要な事業を行った。

第3 報告事項

1 吟道振興新生イキイキ5ケ年計画について

高齢化による会員減少に歯止めをかけ増強に転じるべく策定した「吟道振興新生イキイキ5ケ年計画」の4年目として、引き続き次の5つの具体的目標を掲げて事業を展開した。

- 一 会員減少の歯止め及び会員4000人体制の確立（会員増強推進本部）
- 二 組織・事業の見直し及び活性化（組織・事業推進本部）
- 三 全13地区体制の充実及び活性化（地区活性化推進本部）
- 四 指導者及び後継者育成事業の推進（指導者育成推進本部）
- 五 他流・他団体との交流及び連携（交流・連携推進本部）

計画4年目の令和3年度の結果は次の通り

- 一 高齢化に伴う会員減少に歯止めをかけるため、詳細なマニュアルを作成し最も身近な「無料体験教室」の全国展開を進めてきたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急対策等で国民の生活行動そのものが制約され、成果を上げることはできなかった。
- 二 本部主催事業については、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言、まん延防止等の発令で、厳しい状況下ではあったが、事業の見直しを行うなど前向きな姿勢で取り組み、地区とのオンラインによるリモート会議の開催、発表会のライブ配信等一定の効果を上げることができた。
 - DVD・CD等視聴覚教材を活用した「日本吟道DVD夏期大学講座」の開催
 - 令和3年10月14日第33回馬鞍山李白詩歌節“山川異域・詩意重陽”オンライン中日詩吟交流大会にリモート参加
 - 新春賀詞交歓会をリモート開催
 - 執行役員会・理事会をリモート開催
 - 地区代表者会議の初めてのリモート開催
 - 「指導者育成推進講習会」を地区と本部によるオンラインで開催
 - 令和4年3月25日入場者制限等コロナウイルス感染防止策を講じた「第57回日本吟道青少年全国大会&壮心の集い」「日本吟道全国吟詠コンクール決選大会」の同日開催
 - 「五行歌吟詠集制作記念発表会」のオンライン配信・DVDの制作
- 三 全13地区体制の充実及び活性化については、新たに取り組んだ担当理事による「ストップ4000達成/公認団体月一声かけ電話」を展開し、地区代表者との連携により、退会した会の会員を住居近くの他の詩吟の会に入会させるなど、一定の効果が見られた。

四 指導者及び後継者育成事業の推進については、9月より「吟道普及実践教室至誠塾」を開設する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により断念し、令和4年度からニヶ年にわたる事業とし、令和4年4月13日日本吟道会館ホールにおいて入塾式を行った。

五 他流・他団体との交流及び連携については、「五行歌吟詠集制作記念発表会」に五行歌の会主宰・草壁焰太先生と会員及び他流・他団体関係者を招待した。また、中国国際詩歌節にリモート参加し、他団体との交流を図った。

以 上